

景観まちづくり座談会 だより

この座談会だよりでは、平成27年3月からこれまでに実施した講演会や座談会の内容を凝縮して地域の皆さんにお知らせしています。今年度の最終号となる今回は、2月7日に開催した第6回座談会(成果発表会)の内容をお届けします。

第1回 「地域で守っていききたい風景、改善したい風景を共有する」

済(H27/5/30)

第2回 「自然を守り、つくっていく方法を考える」

済(H27/6/21)

第3回 「交通・移動・道づくり」

済(H27/8/23)

第4回 「集落の風景を守り、つくる」

済(H27/10/4)

第5回 「世界遺産の活かし方」

済(H27/11/15)

第6回座談会 (参加者数: 20名)

実施済(H28/2/7)

第6回座談会では、これまでの座談会の総括として、宗像市景観アドバイザー仲間先生よりお話をいただきました。

後半では、参加者のみなさんから頂いた意見や質問に対して、市と仲間先生より回答を行い、今年度の座談会のまとめとしました。

—景観アドバイザー仲間先生の総括—



座談会の様子

前回までの5回の座談会をとおして、景観まちづくりによってどんなことができるのかを考えてきました。景観とは、自然を基盤とした生活・生業の営みが積み重なり、「現時点での成果」として、今私たちの目に見えているもの。風景を見ると、「自分たちの生活」と「昔の人たちの努力」、歴史との関係が分かります。同じように、将来の人達にとっても、現代の私たちの営みを伝えるものにもなるのです。

景観まちづくりで目指しているのは、このまちで子どもを育て、豊かな暮らしをして、ここで亡くなっていくこと。田畑を守ったり、道をきれいにしたり、家やお店を整えて、美しく暮らしていくこと。そのために決まりごとや助け合いの仕組みが必要であり、それは世界遺産のためではなく、地域づくりを行っていく上で、もともと必要なことです。

玄海地域にとって、世界遺産になることがゴールではありません。世界遺産の候補として評価されているものは、皆さんが「魅力的な人生を全うできる場所をつくっていくこと」の上にか成り立たないものです。世界遺産になってもならなくても、玄海や大島の地域は変わらない。その変わらなさが、結果として、世界遺産の価値になっていくのです。



宗像市景観アドバイザー
仲間浩一先生

－参加者のみなさんからの意見・質問とその回答（抜粋）－

Q. 世界遺産になることの意義、メリットやデメリットは何ですか？

A. 世界遺産を目指す意義としては、今後沖ノ島が荒らされてしまう危険性に対する対処があります。そのためには改めて地域の文化や信仰を見直す必要があります。市内の小学6年生に沖ノ島や宗像大社に関する地域学習等を行っています。こうした取り組みで少しずつ住民や来訪者の意識を変えていく、その積み重ねが大事だと考えています。

世界遺産登録により、来訪者が押し寄せることに関しては法的な規制ができません。しかし、今後想定されるゴミや渋滞の問題については、住んでいる方への影響が最小限になるよう、また、現在の環境をより良くしていくために、駐車場の整備や交通制限等について検討を行っていきます。

Q. 世界遺産の構成資産がある福津市や、宗像市他の地域との連携が必要だと思います。

A. 玄海地域や宗像大社は、宗像市全体を支えるもののひとつと考えています。玄海あつての宗像市という意識で、今後もまちづくりを行っていきます。

福津市との連携としては、現在、県の指導のもと、世界遺産登録に向けた構想を一緒に策定しています。

Q. これまでの座談会で出た意見を、行政としてどう具体化していくのですか？また、景観条例などには反映されますか？

A. これまでいただいた意見に基づいて、市の中で景観づくり部会、来訪者対策部会、啓発部会等を開き、関係部局が集まって一つ一つ課題のピックアップを行い、より良い方向にしていくためにどうしていくかという計画を作っていきます。ある程度計画の方向性がまとまった段階で、住民のみなさんにご提示していきたいと考えています。

大きな問題の一つとしては、メガソーラーの問題が挙げられますが、再生可能エネルギー推進の施策もあるため、メガソーラーの建設については現在ストップがかけられない状況です。対処としては、特に景観上重要と考えられる地区において、自主条例をつくることなどを今後検討していきたいと考えています。

Q. 沖ノ島をどう守っていきますか？また、環境保全の取り組みについて教えてください。

A. 国内外からの無許可の上陸等については、海上保安庁が取り締まりを行っています。

宗像市としては、平成27年5月に宗像国際環境100人会議を行うなど、海の環境を考える取り組みを行っています。また、市民の会の清掃活動なども活発に行われているため、今後より多くの人を巻き込んでいけるよう働きかけを行います。住民のみでなく、都市圏に住む宗像出身者や宗像を応援してくれる人、思いのある人をどうエネルギーにしていくかも鍵になると考えています。



－今後の予定－

今年度の玄海地域座談会はこれで終了となりますが、宗像市では来年度以降、景観まちづくり事業として様々な整備や取り組みを行っていきます。そのためには、引き続き住民のみなさんの景観まちづくりに対する意見をお聞きする場を設けていきたいと考えています。詳細は市報や市のホームページなどでお知らせしていきますので、今後も積極的なご参加をお待ちしています！